



CESS^{*}(Committee for Expertise of Shipbuilding Specifics＝造船関係専門委員会)は、2013年9月5日に札幌市にて年次総会を開催した。日本、欧州、中国、韓国、米国の造船団体等が参加し、世界の造船業を取り巻く諸問題について議論を交わした。今次総会は日本の主催にて開催された。

年次総会では、過去1年間のCESS活動のレビューと今後1年間の活動計画の検討を行ったほか、重要課題、とりわけGHG排出削減計画、バラスト水管理システム、GBS船舶建造ファイルにおける知的財産権問題および規制に関する諸問題、への業界共通の意見発信に向けたさらなる連携の模索について意見交換が行われた。

会議では、①重要課題に対しては、相互で認識を共有することの重要性を他の海事業界に対して訴えていくこと、②海事産業に従事する関係者という視点から、諸問題に対して幅広く対処できる現実的な解決策を見出すため、自身の立場を十分前もって積極的に表明していくこと、を継続して行っていくことを確認した。

また、①規制の動向に影響を与える可能性のある新技術にどう対処するか、②過去の前例を教訓として、実用的な観点からルール策定の段階でいかに前向きな貢献をするか、③IMOで議論されているGHG排出削減計画の枠組み構築を支援するため関連業界に幅広い貢献ができるようどのように備えるか、という点にも議論が及んだ。

2012年のパリMOU及び東京MOUのポートステートコントロール(PSC)の活動についても報告が行われ、両地域におけるPSC活動はこれまで同様、着実に成果を上げていることが報告された。また、造船の質に起因する船舶の欠陥件数が引き続き減少していることを確認した。欠陥件数および停船命令件数が増加する懸念は今次報告から明確でなく、見極めるのにはしばらく時間を要すだろうから、今後注意深く方向性

※ 旧称:サブスタンダード船排除委員会(Committee for Elimination of Substandard Ships)。2005年の中国・杭州で開催されたJECKU TEM以降、新名称に変更し機能を拡大し活動を開始。

CESS 2013
Press Release

を見守る必要はあろう。ただし老齢船ほど欠陥や停船命令につながる問題を抱えているのは明らかであり、この点も今後しっかりと調査していくことが必要である。

CESS メンバーは、将来の造船業界の繁栄にはメンバー間のさらなる結束が引き続き重要であり、直面する諸問題を業界が好ましい方向に効果的に解決できるよう今後 1 年間の CESS 活動の更なる活性化の必要性を認識し、CESS 活動を継続的にサポートしていくことに合意した。今次総会の結果は、2013 年 11 月 13～15 日に沖縄県名護市で開催される JECKU TEM (造船首脳会議) で報告される。

CESS 造船関係専門委員会
委員長 岩本 洋 (Dave Iwamoto)

(気付)

一般社団法人日本造船工業会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-12
日本ガス協会ビル 3 階
suzuki@sajn.or.jp